

(株) シャトレーゼ 中小企業・SDGs ビジネス支援事業に採択

～スラウェシ島におけるカカオ栽培と気候変動対策に貢献～

国際協力機構（JICA）は、12月25日、「中小企業・SDGs ビジネス支援事業」（下部※参照）において、株式会社シャトレーゼ（山梨県甲府市、古屋 勇治 代表取締役・社長）が提案するビジネス化実証事業を採択しました。詳細は以下の通りです。

●株式会社シャトレーゼ

「インドネシア国 スラウェシ島におけるカカオ栽培と気候変動対策のビジネス化実証事業」

インドネシアは、約2.7億人の人口を擁するASEAN地域経済をけん引する国として存在感が高まっています。目覚ましい経済発展を遂げている同国では、急速な中間所得層の増加と共に、生活の質の向上に向けた、大都市と地方の均衡ある発展を目指しています。日・インドネシア二国間関係としては、2008年7月発効の日・インドネシア経済連携協定に基づき、日系企業約1,800社（2016年時点、外務省）が拠点を置く等、緊密な経済関係を築いています。

シャトレーゼは同国の中部地方に位置するスラウェシ島において、農家から新鮮な素材を仕入れ、自社工場にて製造した製品を店舗販売するビジネスモデル「ファーム・ファクトリー」のビジネス展開を目指しています。

本ビジネス化実証事業では、カカオ豆の発酵・乾燥技術の移転による品質・生産効率向上と安定化、自国産素材を活かした良質なチョコレート菓子の製品化と販路確保によるカカオ豆農家の生計・管理能力向上を目的として、現地政府農業局やカカオ豆農家コミュニティと協働しながら、カカオ事業ビジネス化のための実証を行います。本ビジネスは、労働対価を得られていないカカオ加工の一部を担う女性の雇用安定化や、森林伐採の抑制による気候変動対策（二国間クレジット制度：JCM）、均衡ある発展を通じた公正な社会の実現、多様化する消費者ニーズの充足にも貢献します。

また、持続可能な開発目標（SDGs）のゴール1「貧困」、持続可能な森林管理のもとでカカオ栽培を推進することでSDGsゴール13「気候変動対策」及びゴール15「森林保全」の達成への貢献も期待されます。



事業対象地

本事業は、中小企業・SDGs ビジネス事業「ビジネス化実証事業」として実施されます。同事業は、途上国の課題解決に貢献し得る技術・製品・ノウハウ等を活用したビジネスアイデアやODA 事業での活用可能性の検討、ビジネスモデルの策定を目指すものです。詳細は、文末にある関連リンクをご参照ください。

【関連リンク】

「中小企業・SDGs ビジネス支援事業」概要：

https://www.jica.go.jp/activities/schemes/priv_partner/activities/index.html

2023 年度採択についての記事：https://www.jica.go.jp/information/press/2023/1527096_25245.html

株式会社シャトレーズ：<https://www.chateraise.co.jp/ec/default.aspx>

二国間クレジット制度（JCM）：https://www.mofa.go.jp/mofaj/ic/ch/page1w_000122.html

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 横浜センター 民間連携事業班 担当：吉田、早川

TEL：045-663-3253 Fax：045-663-3265 E-mail：YICTPP@jica.go.jp

HP：<https://www.jica.go.jp/domestic/yokohama/index.html>